

1. 令和4年度にぎわい交流館運営実績について

(1) 会議室等利用実績について

令和4年度は、年間の予定通り開館日数は357日となりました。9月19日（月・祝）は暴風警報発令の為14時半に閉館時間を繰り上げました。感染症対策のため、定員を従来の半分から3分の2程度にした、令和4年1月からの会議室の利用制限を継続しました。令和5年1月からの緩和では、特例利用申請で長時間や飲食の利用を可能として13件利用されました。3月13日からは特例利用は廃止され、定員は上限まで入れるようになりました。

会議室の利用人数は前年度同期比で約20%増、利用件数（コマ数）は約27%増でした。しかし、昨年度の制限を考慮すると、ほぼ横ばいで、コロナ禍以前の令和元年度と比べると約半分の利用が3年続いていると言えます。感染症法5類への移行が本格的に検討された1月からは、小幅ではありますが、徐々に利用人数が伸びています。

会議室の利用時間区分と定員（コロナ禍以降は感染症対策ルールとして設定）

	利用時間区分（コマ）	会議室定員	その他
コロナ禍以前	区分なし	会議室ABC：51名 会議室D：15名 和室：16名	
令和2年 6月～12月	午前 ①9：00～10：30 ②11：00～12：30 午後 ③13：30～15：00 ④15：30～17：00 夜間 ⑤18：30～20：00 ⑥20：30～22：00	会議室ABC：15名 会議室D：5名 和室：4名	
令和3年 1月～12月		会議室ABC：25名 会議室D：8名 和室：8名	
令和4年 1月～	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00	会議室ABC：34名 （※AB22名・C12名） 会議室D：10名 和室：8名 ※令和5年1月からAB・C 分割利用が可能となった	連続利用：3コマ（4時間半） 特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限
令和5年 1月～			特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限 ・部屋間の往来 ・同室の1日4コマ以上の利用 ・会議室内での飲食
令和5年3 月13日～		会議室ABC：51名 （AB33名・C18名） 会議室D：15名 和室：16名	特例利用撤廃 ・飲食時パーテーション利用又は 適切な距離の確保の案内

※まん延防止等重点措置等を受けて、令和3年度まで一部の期間で開館時間を短縮しました。

会議室等の利用状況

	R4年度	R3年度	R1年度
開館日数	357日	323日	357日
会議室利用人数	13,503人	11,269人	24,777人
利用件数	3,319件	2,612件	2,006件
利用率（設定されたコマ数（時間帯）に対して利用があったコマ数の割合）	午前 44.2% 午後 46.0% 夜間 13.1%	午前 37.4% 午後 41.6% 夜間 10.8%	設定なし
利用率 （1件以上の利用があった割合）	午前 90.8% 午後 94.1% 夜間 56.0%	午前 91.3% 午後 92.6% 夜間 49.5%	午前 91.3% 午後 95.5% 夜間 78.2%
会議室利用団体数	143団体	148団体	167団体
1件あたりの利用人数	4.7人	4.3人	12.4人
印刷機の利用件数	420件	288件	556件

※令和元年度の利用件数はコマ数ではなく、利用時間数に関わらず1件で計上しています。

会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 ABC	会議室 D	和室	合計
利用 人数	R4 年度	8,446 人	3,495 人	1,562 人	13,503 人
	R3 年度	7,268 人	2,667 人	1,334 人	11,269 人
	前年比	116.2%	131.0%	117.1%	119.8%
	R1 年度	13,955 人	6,298 人	4,524 人	24,777 人
	R1 年度比	60.5%	55.5%	34.5%	54.5%
利用 件数	R4 年度	1,445 件	1,192 件	682 件	3,319 件
	R3 年度	1,138 件	922 件	552 件	2,612 件
	前年比	127.0%	129.3%	123.6%	127.1%
	R1 年度	786 件	719 件	501 件	2,006 件
	R1 年度比	183.8%	165.8%	136.1%	165.5%

会議室の利用率（コマ数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R4 年度	57.3%	56.6%	21.0%	44.4%	52.1%	14.8%	30.9%	29.2%	3.5%
R3 年度	49.2%	52.2%	16.0%	41.1%	44.0%	10.1%	22.0%	28.7%	6.3%
R1 年度	75.1%	86.6%	59.4%	72.0%	86.6%	52.4%	64.7%	74.2%	37.8%

※1 件以上の利用があった場合に計上。

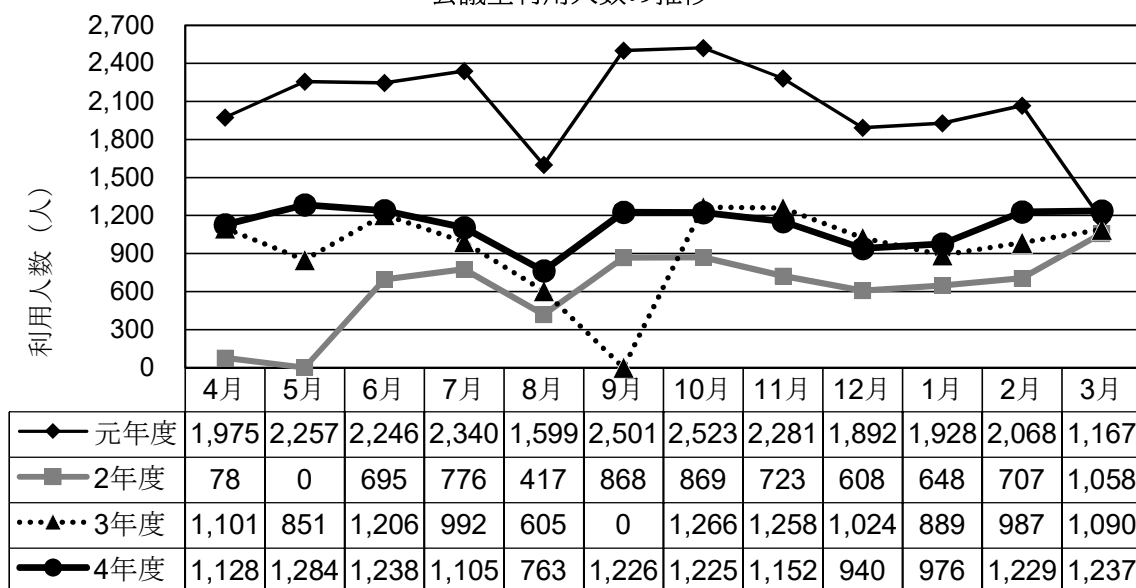
会議室の利用率（日数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R4 年度	80.7%	77.9%	36.7%	68.1%	79.6%	28.6%	46.2%	47.1%	6.4%
R3 年度	74.9%	75.9%	35.0%	68.1%	71.5%	21.4%	36.5%	45.5%	10.8%
R1 年度									

※利用時間の区分に対してのコマ数を計上。2021 年 1 月からの区分は、午前①8：30～10：00

②10：00～11：30 ③11：30～13：00、午後④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30、夜間⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00 ※R1 年度はコマ区分がないため未記載。

会議室利用人数の推移



(2) 市民サロン運営実績について

今年度から本格再開としたワンデイシェフによるランチ提供は、4 団体となりました。1 日あたりの平均食数は 23.3 食でした。利用促進の取り組みとしてコロナ禍前に実施していた「木祖村ランチフェア」「あったかだんらん鍋フェア」は中止しました。9 月頃に調理室の修繕工事を行い、10～11 月に「わいわいグルメラリー」を実施しました。

マーケットは 6 団体（10 月まで。その後 1 団体減少し、3 月末時点で 5 団体）が利用し、月に 10～15 日程度開催されました。来館者の増加と共に、出店団体と来館者の会話も増えてきたと感じています。

ランチコンサートはコロナ禍から引き続き休止しています。登録団体へのアンケート・サロン利用者へのアンケートをそれぞれ行い、許容される音量、実施する時間帯、演奏者のレベルといった項目をどうするとよいと思うか尋ねました。登録団体へのアンケートでは、平日のランチ時希望が約 38%、音量は会議室に干渉しない程度が約 46%、出演者は演奏経験を問わなくてよいが約 54%となりました。サロン利用者へのアンケートでは開催希望が約 65%、平日のランチ時希望が約 51%、音量はサロンの会話を妨げない程度が約 36%、出演者は演奏経験を問わなくてよいが約 40%となりました。しかしいずれも回答はばらけており、「特別イベントをやるとよい」「音楽以外の表現はどうか」などのアイデアや、「会話できない」「必要性が理解できない」などの意見もあり、今後も検討を重ねます。

ギャラリーの開催回数は 23 回で、前年度より大きく回復しました。展示期間を 2 週間に伸ばしたルールも 3 年目となり定着しました。中には期間中に作品を入れ替えるなどの工夫をされる方もおり、来館者の楽しみにつながっていると感じます。調理室の修繕工事の際はサロンの利用を制限していたことから中止期間もありました。

	ワンデイシェフ						ランチコンサート			ギャラリー		
	食数（食）			1 日平均食数（食）			開催回数（回）			展示回数（回）		
	4 年度	3 年度	元年度	4 年度	3 年度	元年度	4 年度	3 年度	元年度	4 年度	3 年度	元年度
4 月	135		1,187	27.0		45.7			10	2	2	2
5 月	176		961	25.1		41.8			10	2	1	0
6 月	134		1,098	26.8		42.2			10	2	0	3
7 月	97		1,157	19.4		46.3			9	2	1	3
8 月	53		969	13.3		46.1			6	3	0	3
9 月			1,060			46.1			9	1	0	1
10 月	289		1,122	24.1		46.8			10	2	2	1
11 月	320		1,142	24.6		45.7			10	3	2	3
12 月	140		811	23.3		47.7			7	1	1	2
1 月	137	53	901	22.8	26.5	42.9			6	1	1	1
2 月	184	130	955	23.0	26.0	41.5			9	2	1	4
3 月	266	132		26.6	26.4					2	2	3
合計	1,931	315	11,363	23.3	26.3	44.7			96	23	13	26

(3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は3月末時点で287団体であり、前年度末に比べて20件増加しました。活動を始めたり再開した団体が15団体程あり、感染症がおさまらない中でも活動が始められました。

新規登録団体の主たる活動分野は、「保健・医療・福祉」（10件）が多く、次いで「子ども健全育成」（7件）でした。

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
平成29年度				271
平成30年度	39	11	28	299
令和元年度	25	2	23	322
令和2年度	10	3	7	329
令和3年度	17	78	-61	268
令和4年度	29	9	20	287

※8月に累計団体数の数え間違いが確認されたため修正しました。（単位：件）

(4) 相談対応について

期間中に対応した相談は370件でした。相談の多かった前年度（333件）と比べて、さらに11%の増加となりました。韓国語講座や日本語教室・英会話などへの関心が高く、歌や演劇・体操など活動スペースを探されている方が多かったです。感染症対策として変更のあった開館運営や子ども食堂等の寄附・わいわいフェスティバルについての問い合わせなども多くありました。

相談者の内訳は「登録団体」が38%で最多で、前年度とほぼ横ばいとなりました。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多で24%、次いで「館の運営・事業について」となりました。「広報・集客について」は昨年（14件4.2%）から2.5倍に増加しました。わいわいフェスや、市の補助金事業に関する広報の相談が多かったです。

また「助成金・資金調達について」（20件）も、前年度より4件増加しました。市の補助金応募の際に必須の相談で、相談のみで応募がなかった団体も含めて延べ27回もの相談を受けました。補助金申請が終わってからも継続して相談される方もおり、相談員強化デーの周知も浸透し、気軽に相談していただけるようになったと考えます。

相談者の分類			相談内容の分類		
登録団体	142	38.4%	施設利用・団体登録したい	89	24.1%
市民	129	34.9%	館の運営・事業について	42	11.4%
未登録の団体	51	13.8%	団体について知りたい	39	10.5%
行政・学校等	28	7.6%	講座や団体を探している	36	9.7%
企業	15	4.1%	広報・集客について	35	9.5%
社協	5	1.4%	その他	129	34.9%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

(5) 主な事業の進捗状況

【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい NEWS (Vol. 24・25)	令和4年6月 令和5年2月	発行部数 2,000部
	市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。特集のインタビュー記事を中心に構成。地区回覧がなくなったため配布方法の検討を重ねている。今年度の2団体は、団体の手でも100部以上配付された。当初の計画通り2号発行。 Vol. 24 共に育ち共に創る未来 黒田忠晃さん（NPO 法人親育ネットワーク、ラクロサポーター、 NPO 法人 Earth as Mother、にっしん educa+、日進市未来を創る条例ジャーズ） Vol. 25 〈にっしんの宝〉東部丘陵を自然公園にしたい！ 東部丘陵を守る連絡会		
2	イベントカレンダー	月1回	発行部数 150部
	登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月1回市内公共施設に設置する。当初の計画通り発行。		
3	にぎわい団体帖	令和4年10月	掲載団体 276団体 発行 100部
	市民活動団体の認知度向上・参加促進のため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作した（2021年度版を基本に、変更箇所を団体に聞き取り更新）。ウェブサイトで公開したほか、印刷したものを市内公共施設等に送付した。相談・問い合わせを受けた時の資料として、また社協ボランティアセンターや地域学校協働活動推進員との連携時の資料としても当初の想定以上に活用できている。当初の計画通り発行。		
4	にっしんわいわいフェスティバル実行委員会事務局	《令和4年度開催》 会議等 令和4年4月～8月 開催 7月2日（土）	《令和4年度開催》 実行委員 4人 出展団体 72団体 来場者 701人
		《令和5年度開催》 実行委員募集 9月 会議等 9月～令和5年3月	《令和5年度開催》 実行委員 6人
	市民活動団体等が主体的に関わるイベント開催のため、実行委員会（全体会）の運営、出展団体の取りまとめ、経費精算をはじめとする諸業務を行った。当初の計画通り実施。 わいわいフェス 2022 の実行委員会は少人数の体制で、それぞれの思いを汲んだ話し合いができた。その結果として、感染症対策をとりながら、来場者の数よりコミュニケーションの質を重視する方向へ転換を図った。来場者や出展団体を対象としたアンケート結果も高評価で、出展団体の「伝えたい」という思いと、来場者の「知りたい」という思いが噛み合い、双方にとって有意義な機会となったと考える。		

	事業名	日程	参加者数等
	わいフェス 2023 では、前回の実行委員 4 人が続投、新たに 2 人が加わり、前年の方針を継承する形で丁寧な話し合いができています。出展団体の応募は前年を上回る 75 団体となった。		
5	広報講座（団体向け講座）	令和 4 年 5 月 21 日（土）・ 5 月 25 日（水）	参加者 7 人
	「活動紹介のチラシ・掲示 レベルアップ道場」と題して、情報提供とワークショップを組み合わせた団体向け講座を実施した（同内容で 2 回実施）。対象者・目標設定、仮説と検証といった段階を踏んで広報媒体の効果を高めていく手法を知り、実践する足掛かりとしてもらった。参加者の満足度はとても高く、充実した内容の講座を開催することができたが、参加者数は目標を下回った。当初の計画通り実施。		
6	カードゲームで SDGs を学ぼう （市民向け講座）	令和 4 年 6 月 11 日（土）	参加者 23 人
	「なぜ SDGs が必要なのか」、「SDGs があることでどんな可能性が生まれるのか」を体験的に理解してもらうため、「2030 SDGs」を使用して公認ファシリテーター（加藤武志さん）による「SDGs カードゲーム」と振り返りを行った。 参加者の評価は高く、アンケートの結果からも「自分自身も世界を変える起点である」という意識変容が起こり、そこからの行動変容も期待できると考える。一方、参加者数は目標を下回った。当初の計画通り実施。		
7	わいわいグルメラリー （ワンデイシェフ利用促進事業）	令和 4 年 10 月 1 日（土） ～11 月 30 日（水）	協力団体 6 団体 粗品お渡し 91 人
	コロナ禍や修繕工事により休止していたワンデイシェフが再開したことを周知し、利用促進する。合わせて市内の NPO（社会福祉法人、NPO 法人、一般社団法人）が運営するカフェ等と連携することにより、NPO 支援につなげるとともに話題性を高める。 市内の NPO のカフェ等とワンデイシェフを 1 回ずつ利用した市民に、粗品（ペットボトル飲料）をプレゼントした。チラシには参加団体の「イチオシ MENU」や営業時間なども掲載し、PR につなげた。利用した市民は想定を下回ったが、「初めて利用した」との声も各所で聞くことができ、一定の効果は得られた。 当初の計画になかったが、友好自治体フェアの中止などの状況を考慮し、実施した。		
8	にしん市民まつり にぎわい 交流館ブース	令和 4 年 11 月 20 日（日）	ブース出展 出展団体 12 団体 来場者 1,293 人 （出展団体からの報告の合計） いつも防災探検隊 協力団体 9 団体 来場者 約 100 人
	市民活動団体によるブース出展（感染症対策のため数を減らし、屋外 10 ブース、市民サロン 1 ブース、ワンデイシェフ 1 団体）のほか、会議室 ABC では「いつも防災探検隊」		

	事業名	日程	参加者数等
	と題した企画を実施した。また、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。 来場者数は、感染症の影響により以前の半分程度になることを見込んでいたが、それをやや上回る結果となった。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はおおむね達成できた。当初の計画にはなかったが、避難所パーティションの実物を使い、子育て・防災の活動をしている団体の協力を得て「いつも防災探検隊」という企画を実施。親子向けに当館のPRをする機会となった。		
9	まちづくりコトコト交流会	令和5年2月26日（日）	
	活動を始めたばかりの団体による発表を取り入れた団体交流会を開催する。話題提供や交流を通じて、他の団体の活動に対する理解・応援・共感の気持ちが芽生えたり、自らの活動意欲が高まったり、新しい連携・協働が芽生えたりすることをねらう。まだ活動を始めていない人にも参加してもらうことで、ボランティア等の市民活動の萌芽を促進する。当初の計画にはなかったが、団体アンケートの結果もふまえ、団体交流に関する取り組みを手厚くする必要を感じ、実施した。		
10	【中止】友好自治体フェア	【当初予定】令和4年8月 令和5年2月	
	友好自治体(木祖村、志摩市)との連携、ワンデイシェフの利用促進、来館者増加が目的。ランチフェア、加工食品の受託販売などを予定していたが、感染症予防拡大防止のため中止した。市民協働課によるにぎわい交流館でのギャラリー展示のみ実施。 ワンデイシェフの利用促進としては前述のとおり「わいわいグルメラリー」を実施した。		

【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	事業報告・説明会	Zoom 公開質問会 令和4年8月24日（水） 動画配信 8月20日（土）～	Zoom 公開質問会 2人 動画視聴 111回 (10/25時点)
	登録団体に対して、にぎわい交流館の令和3年度の事業成果について報告するとともに、令和4年度の事業計画について説明し、情報共有・意見交換を行うと機会とした。 YouTubeでの動画配信のほか、リアルタイムでの意見交換・交流のためZoomを利用した説明会・公開質問会を実施した。またウェブサイト上でアンケートを実施した。アンケート回答は昨年比若干増え、回答からは各事業内容やねらいを理解していただけたことがうかがえた。今後は従来の直接参加型に戻し、デジタルコンテンツとの併用や開催方法について検討を重ねたい。当初の計画より時期を遅らせて実施。		
2	お子様弁当無償提供事業等に	令和4年8月（2日間）	利用団体 1団体

	事業名	日程	参加者数等
	関する登録団体のサロン棚利用	令和4年12月 ～令和5年1月（5日間）	利用団体 3団体
		令和5年3月～4月（3日間）	利用団体 1団体
	全国チェーンの飲食店が無償提供する弁当を子育て家庭に配布するため、「にぎわいマーケット」の行為許可に準じて、市民サロンの棚を貸し出した。当初の計画になかったが、団体のニーズを把握したため実施した。今後もニーズに合わせて継続したい。		
3	にぎわい夢まつり	令和4年9月18日（日）	出展団体 6団体 ブース来場者 581人 （出展団体からの報告の合計）
	市民活動団体によるブース出展（感染症対策のため数を減らし、5ブースに）のほか、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。感染症対策として規模を縮小したため来場者や販売金額の減少を見込んだが、当日午前中の雨もあり従来の4分の1程度にとどまった。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はある程度達成できたと思われる。		
4	LINE 公式アカウント はじめて講座	令和4年10月27日（木）・ 10月29日（土）	参加者 9人
	市民活動団体が情報発信・集客ツールとして LINE 公式アカウントを運用できるようになるよう、LINE 公式アカウントの開設および初期設定、メッセージ配信などの日常的な運用について説明し、パソコン・スマホ等を使用しての実践の時間も設けた。 参加者数、満足度とも目標を概ね達成できた。一方で、利用するか団体内で決まっていないうという参加者も多く、実際に LINE 公式アカウントの運用を新たに始めるところまではつながらなかった。 当初の計画になかったが、団体のニーズを把握したため実施した。		

その他特記事項

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月1回を目安に、11回実施。
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター事業への参加…3回
（ボランティア向け講演会、登録説明会・部会報告会・団体交流会、地域ささえあい円卓会議）
- 子どもの支援を考える会……1回
- にしん観光まちづくり協会参加……5回（総会、理事会4回）
- わたしのまちのしあわせづくり委員会……1回
- 環境課……エコモビ推進キャンペーンに協力
- 愛知淑徳大学 CCC……コラボメッセに参加
- 公益財団法人とよしん育英財団表彰……3団体を推薦、うち2団体が表彰された
- 地域公共交通シンポジウムに参加
- 東大手サロン「今さら聞けない町内会・自治会」交流企画に参加
- スペシャルニーズの子ども達と共に育む会スマイル座談会にゲスト参加
- 地域の未来・志援センター「第11回東海地区市民活動センタースタッフ交流会」に参加
- 生活改善実行グループへの調理室貸出……生涯学習課主催。旧市川家を利用したイベントの弁当企画のために、ワンディシェフが稼働していない日程で調理室の貸出を行った
- 愛知学院大学リサーチプロジェクトへの協力……日進の市民活動の課題を話した。活動の後継者問題について考えるグループへ、課題の整理や団体紹介・調整やイベントの組み立てや広報

などのサポートを行った

- 日進市新規採用職員研修……講師として参加
- 三好高校インターンシップ……6名受け入れ、報告会に参加
- 日進市市民自治活動推進補助金の成果報告会・募集説明会・公開ヒアリングを傍聴

2. 令和 5 年度にぎわい交流館運営計画について

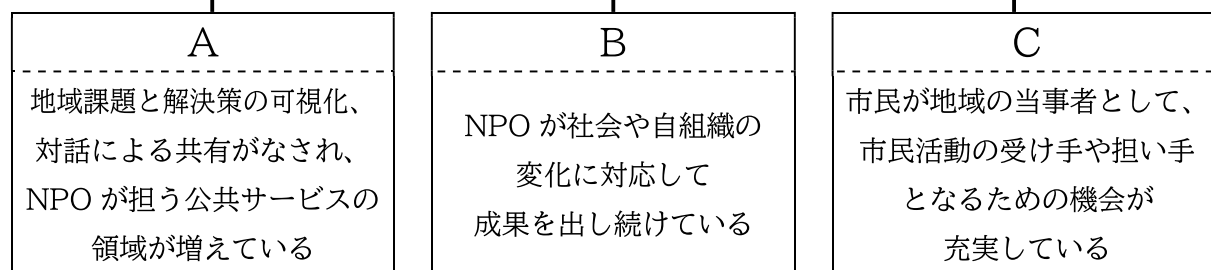
(1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成 29 年度から掲げてきたビジョンについて、令和 4 年度に小幅の見直しを加えて使用しています。使用期間は第 6 次日進市総合計画（以下「6 次総」）の中間目標年に合わせ、令和 7（2025）年度までです。

ビジョン（まちの将来像）

市民・行政・NPO・事業者が効果的に連携しながら、
地域課題の解決に取り組むしくみができている

長期成果



	長期成果に対する 数値目標 (R5 年度)	直近の実績	6 次総 2025 年の 目標値等	所感
A	行政と NPO の 協働事業件数 104 件	103 件 (R1) 91 件 (R2) 99 件 (R3)	108 件	コロナ禍で減少した協働事業件数は 回復傾向にある。新たな協働を創出 する環境づくりに努めたい。
B	にぎわい交流館 登録団体数 310 団体	287 団体 (R5 年 3 月)	327 団体	高齢化などにより活動を止める団 体もあるが、新規登録も多く、全体 では増加傾向にある。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 16%※	14.7% (H30) 15.2% (R2) 15.6% (R4)	20%	寄せられる相談からも、ボランテ ィアに参加意欲のある市民が増え てきている印象がある。 ※ 2 年に一度の市民意識調査での計測 を継続する。

(2) 受託事業および自主事業

分類	事業名		受託／自主
施設管理・ 利用許可等		会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録 調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー、コンサート 施設管理（清掃、警備、植栽管理など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
		休日の喫茶提供 にぎわいドリンク	自主事業
相談窓口	(1)	相談対応	受託事業
		事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(2)	市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわい NEWS（2 回） 広報にしん記事制作（1 回）	受託事業
	(3)	にぎわい団体帖（1 回） ウェブサイト、メールマガジン イベントカレンダー（月 1 回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用した PR	
		SNS 運用（Facebook、Instagram、LINE 公式アカウント、 Twitter 等）	自主事業
講座・ イベント等	(5)	わいわいフェスティバル実行委員会事務局	受託事業
	(6)	団体向け講座	
	(7)	市民向け講座	受託事業
	(8)	団体交流会	
	(9)	にしん市民まつり（にぎわい交流館ブース） 友好自治体に関する情報収集・PR	自主事業
	(10)	にぎわい夢まつり	
会議等への参 加、関係機関 との連携		にしん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） わたしのまちのしあわせづくり委員会 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会 福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換	受託事業

※番号のある事業は、次ページ以降に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(1)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。毎週曜日を決めて定期的に相談員を置く。相談の内容により、専門家への相談につなげる。			
(2)	にぎわい NEWS	年 2 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙や記事を制作する。各号のテーマは、活動分野やターゲットとなる層のバランスを考慮して選定する。継続。			
(3)	にぎわい団体帖	1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(4)	イベントカレンダー	月 1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、収集したイベント情報をカレンダー形式で制作する。市内の公共施設にも配架する。継続。			
(5)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年（7 月 1 日開催）	受託事業	C
	市民主体のイベント運営のための事務を行う。会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流・連携を図る。また、市民への SDGs や市民活動の啓発を行う。前年度と同様の形態・規模で実施予定。継続。			
(6)	団体向け講座	1 回	受託事業	A・B
	団体のニーズや団体に届けたいことを考えた講座やイベントを企画する。 上期には会計講座（6 月 23 日）を行う。3 年に一度の登録更新に合わせ、会計に不安がある団体や活動を始めて間もない団体を支援する。 その他、地域円卓会議の試行（下半期。地域課題について多様な主体が対等に話し合い、ビジョンや取り組みを設計する仕組み。県の事業成果を踏まえて行う）についても検討中。			
(7)	市民向け講座	1 回	受託事業	C
	市民活動、社会貢献活動の啓発・参加促進のための講座・イベントを企画する。 ボランティア入門講座（令和元年度の事業をもとに、改良を加えて実施）、社会貢献活動を行う企業の見学会（市民、企業とのつながり強化をねらう）といったアイデアを検討中。			

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(8)	団体交流会	1 回（6～7 月）	受託事業	A
	参加団体の近況報告、情報交換を行う。合わせて、にぎわい交流館からの事業報告・事業説明を行い、意見交換や参加の呼びかけを行う。			
(9)	にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）	1 回（11 月）	受託事業	C
	にっしん市民まつりの一環で開催し、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。 ※感染症対策等で中止の場合は、クラウドファンディング講座等の、団体の資金獲得を支援する事業に代替する。			
(10)	にぎわい夢まつり	1 回（9 月）	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。 ※感染症対策等で中止の場合は、クラウドファンディング講座等の、団体の資金獲得を支援する事業に代替する。			